

## イザヤ書SSガイド教師会資料

副題

### わが民を慰めよ

イザヤ書40章1-11節

今期全体を通し学ぶこと。

**イザヤ** **イシャヤフ** 名前の意味は「ヤハウエーは救い」740 B.C頃. から 701 B.C頃. ま  
で南ユダ王国で活躍した預言者。

似た名前 ヨシュア→イエス

イザヤ名の記された印

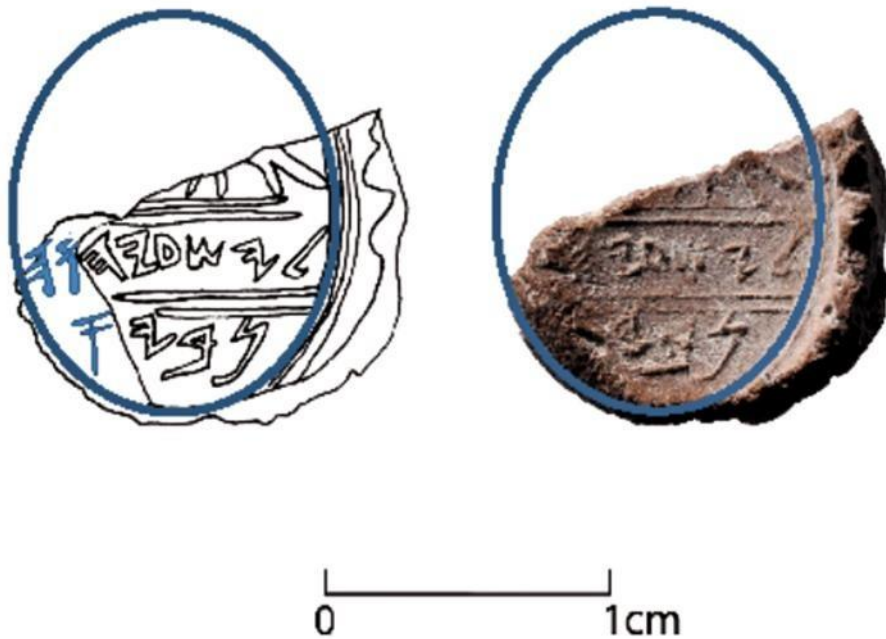
2018. 02. 26 ナショナルジオグラフィック日本版より



イスラエル、エルサレムの発掘調査で、粘土にハンコを押した紀元前8世紀の「封印」が発見された(2009年)。学術誌「Biblical Archaeology Review」に掲載された最新の報告によると、この封印には旧約聖書に登場する預言者イザヤの名が刻まれている可能性があるという。

考古学者エイラート・マザール氏は、「預言者イザヤの印を発見か」と題した報告を同誌に発表。それによると、封印は1.3センチの楕円形の粘土で、一部が欠けている。欠損がなければ、古代ヘブライ文字で「預言者イザヤのもの」と読めるかもしれないとの説を唱えている。

この 2700 年前の封印にある文字の解釈が正しければ、聖書以外でイザヤへの言及が見つかった初の例となる。預言者イザヤは、紀元前 8 世紀末から 7 世紀初めにかけてユダ王国を統治した王ヒゼキヤに助言する人物として、旧約聖書に描かれている。



ヒゼキヤの「印」2015 年にヒゼキヤ王のものと発表されているが、イザヤの印が発見されたところから 3m しか離れていない。



名前には重要な意味があった。名前の形としてはゼカリヤやエレミヤと同じである。そして、多くの場合その意味は信仰の宣言もしくは告白である。「主、彼こそ我が救い」。(詩編27:1 主はわたしの光、わたしの救いこの事はエリシャ、ヨシュア、ホセア、ホシヤなどの名前にも通じる。聖書の中では多くの人イシャヤフとしてその名の短い形イシャヤで知られている。しかしアモツの子イザヤは常に長い形で記されている。2人のレビ人の子孫がイシャヤフの名で呼ばれている(歴代上25:3、15、26:25)エズラやネヘミヤの時代には数名の異なる者がこの名で呼ばれている。(エズ8:7、19、ネヘ11:7)ダビデ王朝の子孫にもこの名がある(歴代上3:21)イザヤと言う短い名はギリシア語聖書 *Hoaiac* やラテン語聖書 *ISAIAS* として用いられ、それが日本語イザヤとして定着した。

**歴史的背景** イザヤの働きはほぼ740BCの召命の幻からヒゼキヤ(716-687)の治世の後期までか、マナセ(687-642)の治世の初期までとされている。

イザヤはユダのウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの治世に生き、おそらくはマナセの最初の治世までは生きていたであろう。

彼はメナヘム、ペカヒア、ペカ、そしてホセアなどのイスラエルの最後の5人の王と同時代に生きた。彼の活動期間にアッシリア王サルゴン二世が悲劇的にもサマリアを滅ぼす

ということが起きた。 722 B.C

北西メソポタミアにおいて精力的専制君主ティグラテピレセル三世(745-727)は強力なアッシリア帝国を起こした。数々の強力な後継者が彼の後を治めた シャルマネセル五世(726-722),サルゴン二世(721-705),セナケリブ(704-681) ,そしてエサルハドン(680-669)などであった。アッシュールバニパル(668-627)と共に帝国は崩壊し始め 612-609 最終的には新バビロニア王、ナボポラッサル(625-585)の指揮のもとバビロニア人らの手に落ちてしまう。

同じ頃、エジプトは第25王朝(ほぼ 716-663)に於いて力の回復を経験していた。そして、それはパレスチナ諸州においてアッシリアを駆逐すると言う国際的な陰謀を引き起こした。パレスチナの小州—シリア、フェリシテ、モアブ、エドム、アンモン、アラビア、ツロ、イスラエルとユダは最終的にはアッシリアに征服もしくは貢ぎを納め従属させられた。これらの小州は強烈なナショナリズムによりアッシリアに反逆し、経済的、政治的不満を生み出し陰謀をめぐらす世界を作り出した。この時代にイザヤは預言者としての奉仕の多くを政治的にユダ、そしてわずかな延長としてイスラエルと関わりを持った。彼は明らかな預言主義の宗教的信条に国家の政策を従わせることを主張した。

**イザヤの生涯** アモツの子イザヤは 760 B.C 頃、ユダに間違いなくエルサレムに生まれた。彼の存在は聖書の他の箇所を確認されている。(歴代3 2 : 20)活動の開始はホセアの後ミカの前である。(ホセア 1 : 1、ミカ 1 : 1) イザヤの時代は道徳的に墮落していた。イザヤ 1 : 2—10 彼は自分の置かれている特別な立場、すなわち同時代の社会と王国の君主達との交わりを楽しんでいた。彼の教養は彼自身の追従するものを許さないすばらしい書物によって明らかである。

## イザヤ書 アウトライン

聖書の達人新聖書注解による

### 第1部 ユダとエルサレムについての幻 1—12章

- (1) 叱責と約束の四説教 (1 - 5章)
- (2) イザヤの召命 (6章)
- (3) インマヌエルの四説教 (7 - 12章)

### 第2部 諸外国に対する審判と預言(13-23章)

- (1) バビロンに対するメッセージ (13 : 1 - 14 : 27)
- (2) ペリシテに対するメッセージ (14 : 28 - 32)
- (3) モアブに対するメッセージ (15 : 1 - 16 : 14)
- (4) ダマスコに対するメッセージ (17 : 1 - 14)
- (5) エチオピヤ (クシュ) に対するメッセージ (18 : 1 - 7)
- (6) エジプトに対するメッセージ (19 : 1 - 20 : 6)
- (7) バビロン (海の荒野) に対するメッセージ (21 : 1 - 10)
- (8) ドマ (エドム) に対するメッセージ (21 : 11 - 12)

- (9) アラビヤに対するメッセージ (21 : 13 - 17)
- (10) 幻の谷 (エルサレムとユダ) に対するメッセージ (22 : 1 - 25)
- (11) ツロに対するメッセージ (23 : 1 - 18)

### 第3部 イスラエルの民に対する審判と救いの終末的預言(24-35章)

- (1) 一般的な審判と約束——その1, 四説教 (24 - 27章)
- (2) イスラエルの民の不信に対する災禍の宣告の五説教 (28 - 33章)
- (3) 一般的な審判と約束——その2, 二説教 (34 - 35章)

### 第4部 歴史的記録(36-39章)

### 第5部 神の救いに関する預言(40-66章)

- (1) 平和の目的に関して (40 - 48章)
- (2) 平和の君に関して (49 - 57章)
- (3) 平和のプログラムに関して (58 - 66章)

#### 第1課

#### アイデンティティーの危機

#### 叱責と約束の四説教 (1 - 5章)

##### 一、創造神への謀反 1 : 2 - 3

1:2 天よ、聞け、地よ、耳を傾けよ、主が次のように語られたから、「わたしは子を養い育てた、しかし彼らはわたしにそむいた。

1:3 牛はその飼主を知り、ろばはその主人のまぐさおけを知る。しかしイスラエルは知らず、わが民は悟らない」。口語訳

1課のまとめは金曜日のところエレン・ホワイトの言葉。

「神の民を自認する民は神から離れ、その知恵を失い、その判断力をゆがめてしまった。彼らは、古い罪から清められた過去を忘れて思い起こすことができなかった。彼らは、以前の自由、確信、幸福についての記憶を消し去ろうとして闇の中を、不安を抱えてあてどなく歩き回った。彼らはあらゆる無遠慮で、向こう見ずな狂気に飛び込み、神の摂理に逆らい、すでに負っていた罪を増し加えた。彼らは神の品性を攻撃するサタンの声に従い、神には憐れみと赦しがないと非難した」 (『SDA聖書注解』第4巻1137ページ、英文)。

#### 約束は暗唱聖句

主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ。(イザヤ1 : 18、口語訳)

今期は最後にまとめが書かれている。

## まとめ

神の民が主を忘れ、その祝福を当たり前のことと感じるとき、神は彼らに主と結んだ契約の責任を思い起こさせられます。憐み深い神は、民の状態をお示しになり、主のみ守りが取り去られたときの壊滅的な結果について警告し、主に癒し、清めていただくように民に強く迫ります。

## 第2課

### 指導者の危機

#### 6章の研究

内容はイザヤの召命と頑迷預言？

ウジヤ王とイザヤの対比。

イザヤの召命 6 : 1-8

頑迷預言イザヤ 6 : 9-13

6:10 あなたはこの民の心を鈍くし、その耳を聞えにくくし、その目を閉ざしなさい。これは彼らとその目で見、その耳で聞き、その心で悟り、悔い改めていやされることのないためである」。

6 : 10 の最後はしかし彼は立ち返り、癒されると理解する立場もある。

神(ヤハウエ)を見る 6 : 1-5 ヨハネ 12 : 37-43 参照 イエスの栄光を見た。

## まとめ

「各階層に邪悪な風習が広く行きわたっていたので、神に忠実であったはずかな人々は、誘惑に負けて気落ちし、失望落胆に陥るのであった。イスラエルに対する神の目的は、失敗したかのように思われ、反逆した国家は、ソドム、ゴモラと同様の運命に陥るかのように思われたのである。

ウジヤの治世の晩年のこうした状態の下で、イザヤが、神の警告と譴責の使命をユダに伝えるように召された時に、その責任を回避しようとしたのは驚くに当たらない。彼は、かたくなな抵抗に会うことをよく知っていた。彼が、事態に当面する自己の無能と彼が働きかけなければならない人々のかたくなさと不信とを考えた時に、彼の任務は、絶望的に思われる

のであった。彼は、失望して、その任務を放棄し、偶像礼拝をなすがままにユダを放任しておくべきであろうか。ニネベの神々が天の神に反抗して地を支配するのでであろうか（『希望への光』505 ページ、『国と指導者』上巻 271 ページ）。

人間のリーダーシップの弱さが痛いほど明白な、この不確かな時代にあって、イザヤは宇宙の至高のリーダーであるお方のすばらしい幻を与えられました。欠点だらけで、ただ石のように立ちすくむしかなかった者であったイザヤは、憐れみによって清められ、力を与えられ、神の使者として敵の陣地に向かって前進する準備ができたのでした。

### 第3課

#### あなたの世界が危機に直面する時

7章の研究でアラム・エフライム戦争が背景。  
特にインマヌエルとは誰かを学ぶ。

1月13日間7以降の説明が重要。

ユダヤ教や自由主義神学などはインマヌエルをメシアに当てはめない。処女もしくはおとめと訳されてるヘブライ語アルマーは若い女性という意味だからである。処女という言葉にはベトゥラーという語がある。

しかし70人訳聖書がここをパルセノス/処女と訳した。

(1) 「おとめ」という言葉が結婚適齢期の若い女性をさすことから、このおとめはエルサレムに住んでいる既婚の女性であり、おそらくイザヤの妻であろうと考える意見も多くあります。

(2) 「インマヌエル」が、次に王となるアハズの子ヒゼキヤを指すと考える意見もありますが、ヒゼキヤを「インマヌエル」と呼んでいる記述はありません。

(3) 「インマヌエル」がどこか神秘的であること、またこの名前が一般的に「神われらと共にいます」と訳され、神のご臨在を表すことから、彼はイザヤ9章と11章に預言されている特別な「男の子」を示すと考えることができます。

(4) 適齢期の未婚の女性から生まれた子は、正式の婚姻関係でない男女の間に生まれた非嫡出子ということになります（申22：20、21参照）。

これに対して、新約聖書はイエスを無垢な「男の子」、「インマヌエル」と確認しています（マタ1：21～23）。婚約中で未婚の処女から奇跡的に生まれた、イエスは神の御子であり（イザ9：6、マタイ3：17）、エッサイの「株」・「根」です（イザ11：1、10、黙22：16）。アハズ王の時代に、将来の救い主を象徴する「インマヌエル」という名の人がいたかもしれません。それは私たちの知る由もないことです。私たちが知らなければならないことは、私たちと共にいます神を示すために、「時の満ちるに及んで、神は御子を女から生まれさせ」られたという事実です（ガラ4：4、口語訳）。

ラシ（1040年2月22日 – 1105年7月13日）は、中世フランスのユダヤ教の著名な学者。旧約聖書やタルムードなど数々の注解書を書く。本名はシュローモー・イツハーキーでラビ・シュロモー・イツハーキーの頭文字でユダヤ人はラシと呼ぶ。

ラシは雅歌1：3に出てくる乙女ら（アラモット アルマーの複数）を処女と注解している<sup>1</sup>。

---

<sup>1</sup> D. H. Stern, *Jewish New Testament Commentary*, Clarksville: Jewish New Testament



またタルムードサンヒドリン99aにこう書かれている。

ラビ・ヒヤ・バルアバがラビ・ヨハナンの名によって言う。すべての預言者(すべての良き預言は)はメシアの時代を預言した。

#### まとめ

「その名はインマヌエルと呼ばれるであろう。神われらと共にいますという意味である」(マタイ1:23)。「神の栄光を知る知識」は「イエス・キリストの顔」にみられる(Ⅱコリント4:6)。永遠の昔から、主イエス・キリストは天父と一つであられた。キリストは、「神のみかたち」、神の偉大さと尊厳のみかたち、「神の栄光のかがやき」であられた。キリストがこの世にこられたのは、この栄光をあらわすためであった。神の愛の光をあらわすために、すなわち「われらと共にいます」神となるために、キリストは、罪のために暗くなったこの地上においでになった。だから、「その名はインマヌエルと呼ばれるであろう」とイエスについて預言された」(『希望への光』675 ページ、『各時代の希望』上巻1 ページ)。「もしアハズが、この言葉を天からのものとして受け入れたならば、ユダ王国は幸福だったことであろう。しかしアハズは、肉の腕に頼り、異邦人の助けを求めることにしたのである。彼は、自暴自棄に陥って、アッスリヤの王、テグラテピレセルに使者をつかわして言わせた。「わたしはあなたのしもべ、あなたの子です。スリヤの王とイスラエルの王がわたしを攻め囲んでいます。どうぞ上ってきて、彼らの手からわたしを救い出してください」(列王記下16:7)。この願いには王の家の倉と神殿の倉庫から、おびただしい贈り物が伴っていた」(『希望への光』513 ページ、『国と指導者』上巻294 ページ)。

神は不信仰な王、アハズを難しい判断を迫る環境に置かれました。信じるか信じないか、それが彼に与えられた問題でした。主は、彼の想像力で理解できるしるしを与え、さらに信じる理由を求めることさえお許しになられたのに、彼はそれを拒み、主を信じる代わりにアッシリアの王を「友」に選んだのでした。

#### 第4課

##### 厳しい道

7章残り と 8章から学ぶ。

イザヤの二人の息子の名の意味。

シェアル・ヤシュブ と マヘル・シャラル・ハシュ・バズ

兄 シェアル・ヤシュブ 残りの民は帰ってくる。こうも訳せる。残りの民は悔い改める。

これはセブンスデーアドベンチストにとって重要な名前。

弟 マヘル・シャラル・ハシュ・バズ 分捕りは早く、略奪は速やかに来る。

---

Publications, 1992, 7. シール・ハシリーム 1:3、ラシ、オツアル・ミドラシーム。



神を畏れることと愛することを学ぶ。

危機直面したアハズ王の不信仰とサウル王の類似

1月21日木曜

アハズは異教の宗教と深くかかわっていましたが（王下 16 : 3、4、10～15、代下 28 : 2～4、23～25）。そして、これら異教の宗教は神秘主義（オカルト）と非常に深く関わっていました（申 32 : 17「彼らは神ならぬ悪霊に犠牲をささげ」、1 コリ 10 : 20 と比較）。現代の多種多様な魔術は、聖書以外の古い文書からも明らかのように、古代中近東の習慣と驚くほどよく似ています。事実、今日のニューエイジ運動（新時代主義）の多くは、こうした古代の神秘主義的慣習の現代版とも言えるものです。

イザヤがここに描写している、主に頼らず、他の霊たちに頼ることの絶望的な結果は（イザ 8 : 21、22）、まさにアハズに当てはまります（代下 28 : 22、23 と比較）。イザヤは、民は憤り、自分たちの王を呪ったと記しています（イザ 8 : 21）。この事は、アハズが民を神秘主義に導いたことへの警告となったことでしょう。事実、アハズが死んだとき、その埋葬に際して、「その遺体はイスラエルの王の墓には入れられ」ず（代下 28 : 27）、王にふさわしい敬意は払われなかったのです。

神秘主義から離れることは主に忠誠を尽くすことです。歴代誌上 10 : 13、14 はこの原則をサウル王の行いに適用しています。「サウルは、主に背いた罪のため、主の言葉を守らず、かえって口寄せに伺いを立てたために死んだ。彼は主に尋ねようとしなかったために、主は彼を殺し、王位をエッサイの子ダビデに渡された」

まとめ

「ヘブル人の時代にも、今日の心霊術者と同様に、死者と交通すると主張するある種の人々がいた。しかし、他の世界から来たといわれている「口よせの霊」が、聖書には「悪鬼の霊」と断言されている（民数記 25 : 1～3、詩篇 106 : 28、I コリント 10 : 20、黙示録 16 : 14 と比較）。口よせの霊を呼ぶことは神が忌みきらわれるものと明言され、死の刑罰をもって厳しく禁じられていた（レビ 19 : 31、20 : 27 参照）。口よせという名称そのものは、今日では軽べつされている。人が悪霊と交わることができるという主張は、暗黒時代の作り話と考えられている。しかし心霊術は、幾十万、いや幾百万の信者を持ち、科学者たちの仲間にも入り込み、諸教会に侵入し、議会の好意を得、王室にまでも侵入している。この巨大な欺瞞は、昔罪とされ、禁じられていた口よせが、新しく変装して復活したものにすぎないのである」（『希望への光』1869 ページ、『各時代の争闘』下巻 310、311 ページ）。

神は、イザヤの言葉だけでなく、彼の行動や家族を通して警告と希望のメッセージを強くお

示しになりました。唯一の安全な道は、すべてをご承知の上で人の歩みに介入しておられる神に頼ることです。神は、私たちを愛し、守り、導く力をお持ちであり、神のために用いる用意のある者たちには、その力をお与えになります。この力以外の力に頼るとき、そこには失望落胆があるのみです。

## 第5課

いと高き平和の君

9章-12章前半の学び

メシア預言 聖書ガイドの著者の言葉今週は、真の永続的な平和をもたらすことのできる唯一のお方について学びます。

暗唱聖句はこの訳がふさわしい。

9:6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。新改訳 2017

理由 1月25日月曜日

この「救い主」には、この方を描写するためのいろいろな名前、または呼び名があります。古代中近東地方では、王たちや神々はその偉大さを示すために多彩な称号を持っていました。

この方は、主の使いがサムソンの父に自らの名を「不思議」と名のつたのと同じ「不思議」です（士 13：18、両者はヘブル語で同じ語根）。

御使いはその後、マノアの祭壇から犠牲の炎と共に天に昇りますが（同 20 節）、これは 1000 年以上も後に実現するご自身の犠牲を予示しています。

このお方はまた、聖なる者（「力ある神」）、永遠の創造主（「永遠の父」）とも言われています（ルカ 3：38 参照——「……アダム。そして神に至る」）。

このお方はダビデ王朝の「王」であって、その平和の王国は永遠に続きます。

1月27日

何故メシアはエッセイの株で、若枝なのか？ダビデ王家も晩年、背信が色濃かった。木（王朝）は切り倒され、傍流からメシアが誕生する。

まとめ

「人間の父親の心は自分の子供の上にそそがれる。彼は幼い子供の顔に見入り、人生の危険を思ってふるえる。彼は自分のかわいい子をサタンの力から守り、誘惑と戦いに会わせたくない」と熱望する。神は、われわれの幼な子たちのために、人生の道を安全にするために、ご

分のひとり子を、もっとはげしい戦いと、もっと恐ろしい危険に合わせるためにお与えになった。ここにこそ愛がある。ああ、もろもろの天よ、驚嘆せよ。ああ、地よ、おどろけ」(『希望への光』687ページ、『各時代の希望』上巻36ページ)。

「人類の救済に必要な条件を満たすことのできるお方はキリストだけであった。いかなる天使も人間も、この大いなる働きを達成するには不十分であった。人の子だけが上げられねばならない。無限の性質だけが贖いの業を成し遂げることができるからであった。キリストは、ご自分の血を献げ、ご自分の魂を罪の供え物とするために、不従順で罪深い者たちと一つになり、人の性質を取ることに同意された。天の会議において、人の罪科が測られ、罪に対する怒りが見積もられたが、キリストは、墮落した人類に希望を与える条件を満たす責務を負う決意を表明されたのであった」(『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』1896年3月5日、英文)。

イザヤの時代に、神は「主の救い」という名前の方が、国家的な背信の結果として彼らの上を下った圧制から、残りの民を救うことを約束されました。この希望の預言は、究極の意味で、「主は救い」という意味の名前を持つイエスのうちに成就します。

## 第6課

神を演じる

イザヤ13章、14章、24-27章の学び。

神の民の敵、サタンとバビロンについて、つまり大争闘史観を学びます。

ルシファーという名はヘブライ語聖書には出て来ない。(ヘブライ語はヘイレルであけの明星)これはラテン語のウルガタ訳の影響で欽定訳聖書にそのまま名詞として登場したので、キリスト教会で使われるようになった。

## 2月2日の学び

How art thou fallen from heaven, O Lucifer, son of the morning! *how* art thou cut down to the ground, which didst weaken the nations! (Isa. 14:12 KJV)

NKJ "How you are fallen from heaven, O Lucifer, son of the morning! *How* you are cut down to the ground, You who weakened the nations! (Isa. 14:12 NKJ)

VUL *quomodo* cecidisti de caelo lucifer qui mane oriebaris corruisti in terram qui vulnerabas gentes (Isa. 14:12 VUL)

NOV Quomodo cecidisti de caelo, lucifer, fili aurorae? Deiectus es in terram, qui deiciebas gentes, (Isa. 14:12 NOV)

新約時代(第二神殿時代)にはルシファーという言葉は当然使用されていない。実はサタンという語も魔王あるいは悪魔の頭の意味ではこの時代のユダヤ教では使用されていない。特に死海文書やヨセフスの文献にはサタンが固有名詞では登場しない。むしろこの時代の悪魔王の名前はベリアル<sup>2</sup>が多用される。死海文書 1QM「戦いの書」参照。

キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。(コリント第二. 6:15 口語)

サタンの名 Σατανᾶς が魔王として有名になるのは新約聖書とキリスト教の影響である。「この巨大な龍、すなわち、悪魔 Διάβολος とか、サタン Σατανᾶς とか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示録 12 : 9)

旧約聖書のギリシア語訳 七十人訳聖書には、I 歴 21:1、ヨブ 1:6-12、2:1-7、ゼカ 3:1-2 にサタンが登場している箇所は全て Διάβολος 悪魔と翻訳されている。

イザヤ 14 章、エゼキエル 28 章は神をも恐れぬ尊大さについて記しています。そしてここでその描写は、地上の王に対する描写を超え、より鋭い神の目線から次のように語ります。

「この誇り高い君主は神の園であるエデンにいた。彼は油注がれ、翼を広げて覆う守護のケルブとして神の聖なる山にいた。創造された日から彼の中に罪が見いだされるまでは完全であったが、神によって投げ落とされ、遂に火で焼き尽くされるだろう」(エゼ 28:12~18)。この修辭的な表現は人間をさすにはあまりに比喩的です。しかし黙示録 12 : 7~9 は、天使たちと共に天から投げ落とされたこの力ある者を、「サタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者」(黙 12 : 9)、エデンの園でエバをだました者(創 3 章)と呼んでいます。

ガイド 45 頁

バビロンの王がルシファーやサタンであることを注目してください。これは黙示録 13 章の先の獣や小羊のような角をもつ獣の王がサタンであることと類似しています。

#### まとめ

「私たちが救いを受けるためには何か条件があるのでしょうか。私たちがキリストのもとに行くための条件はない。では、キリストのもとに行ったなら、何か条件があるだろうか。それは、生きた信仰によって、十字架につけられ、復活された救い主の血によるいさおしに、完全にすがり委ねることである。そうすることで、私たちは、義の業を行うのである。しか

---

<sup>2</sup> 死海文書にはレビ記 16 : 8、10、26 に登場するアザゼルも悪天使の名で登場する。

4Q180 Ages of Creation 他エノク書 4Q201、202、204 など。

し、神がこの世で罪人を呼び、お招きになる時、そこに条件はない。彼は、キリストの招きによって近づいたのであって、それは条件ではない。あなたは、神のもとに行くために応答したにすぎないのである。罪人が神のもとに行く時、彼はカルバリーの十字架に上げられたキリストを見る。その光景は神によって彼の心に焼き付けられる。そのとき彼は、それまでに想像したどんなものをも遥かに越えた愛に捕らえられる。」（『原稿集』第6巻32ページ、英文）。

イザヤは、アッシリアに続いてバビロンがユダを征服するのを見ました。しかし、人間を越えた力を持つ闇の世の主権者（エフェ6：12）が、神に敵対する人間を通して働き、大胆にも神を演じようとするのを見ます。にもかかわらず主は、敢然として打ち勝ち、苦しむ私たちの惑星に永遠の平和をもたらすのを見たのでした。

## 第7課

### アッシリア人の敗北

#### 36章—39章までの学び

特にアッシリア王センナケリブのユダ侵攻の話から。

## 50頁

背信のアハズが死に、信心深い息子のヒゼキヤが王位を継ぎますが、ヒゼキヤの継いだ王国は完全な独立性を失っていました。シリアと北イスラエルの同盟軍に対抗するために、アッシリアの助けを買収したユダでしたが、その後もいわゆる「みかじめ料」として、アッシリアに貢ぎ物を納め続けることとなります（代下28：16～21参照）。アッシリアのサルゴン2世が遠征中に死に、紀元前705年にセンナケリブが後を継ぐと、アッシリアは弱体化したかに見えました。アッシリアと聖書の記録によれば、ヒゼキヤはこれを反逆の好機と捉え（王下18：7参照）、アッシリアに対抗する弱小諸国を束ねる大胆な行動に出ます。

しかし、不幸にも、ヒゼキヤはアッシリアの回復力を見くびっていました。センナケリブは紀元前701年に帝国内の反乱勢力を鎮圧すると、圧倒的な戦力をもってシリア・パレスチナに侵攻し、ユダを占領します。（特に有名なのは要塞の町ラキシユの陥落）

世界地図でのユダ王国（現イスラエル）の位置は古代文明のメソポタミアとエジプトにはさまれ良くも悪くもその影響を受けていた。ヒゼキヤの印を見ると彼はエジプトに惹かれている？ことが解る。アッシリアへの反逆にはエジプトの協力も期待した可能性がある。

## 51頁

高官ラブ・シャケの言葉。（ヘブライ語で話す。）

「エジプトは弱く頼りにならない。ヒゼキヤがユダ中の主の高台と祭壇を取り除き、エルサレムの祭壇だけで礼拝するように言って主を怒らせたので、主に頼ることはできない。事実、

主はアッシリアに味方し、センナケリブにユダを滅ぼすように言われたのだ。お前たちには我々が二千頭の馬を与えたとしても、それだけの数の訓練された兵士もいまい。町を包囲され、餓死する前に降伏せよ。そうすれば、悪いようにはしない。ヒゼキヤにはお前たちを救うことができない。なぜなら、アッシリアに征服された他の国々の神々が彼らを救うことができなかつたように、お前たちの神もお前たちを救うことはできないからだ」

#### 53 頁

ヒゼキヤの揺るがない信仰の祈りに答えて、神はユダに揺るがない安全保障のメッセージをお与えになります。それは、高慢なアッシリアの王に対して下った、燃える神の怒りでした（イザ 37 : 23）。神は速やかにエルサレムを守る約束を成就されます（王下 19 : 35~37、代下 32 : 21、22、イザ 37 : 36~38）。

アッシリア軍の死者は実に 18 万 5 千人に上りました。センナケリブは撤退を余儀なくされ、自国で非業の死を遂げます（イザ 37 : 7~38 と比較）。

「ヘブル人の神は、高慢なアッシリア人を打ち負かしたのである。周囲の国々の目の前で、主の名誉が保たれた。エルサレムでは、人々の心は聖なる喜びに満たされた」（『希望への光』 521 ページ、『国と指導者』 上巻 328 ページ）。

もしセンナケリブがエルサレムを征服していたなら、住民を国外に強制移住させ、ユダは北イスラエルと同じようにそのアイデンティティを失っていたでしょう。そうなればメシアが生まれるはずのユダヤ民族も消滅し、彼らの歴史はそこで終わっていたでしょう。

考えるべき質問（三育学院の未信者の学生に似たようなことを尋ねられる。）  
聖書も聖書の神も知らない人から、たまたまその時代に生まれただけで殺されたアッシリアの兵士たちの死は理不尽だと言われたとしたら、あなたはどうか答えますか。主のこの行為をあなたはどのように考えますか。

#### まとめ

日時計の影を 10 度退かせることは、ただ神の直接の介入によつてのみなし得ることであつた。そして、ヒゼキヤはこれを、主が彼の祈りを聞かれたしるしとして求めたのであつた。

『そこで預言者イザヤが主に呼ばわると、アハズの日時計の上に進んだ日影を、10 度退かせられた』（列王記下 20 : 11）」（『希望への光』 518 ページ、『国と指導者』 上巻 306 ページ）。

「遠国の王からのこれらの使者たちの訪問は、生ける神を賛美する機会をヒゼキヤに与えたのである。彼がすべての造られたものを支えておられる神について語ることは、何と容易なことであつたことだろう。その神の恵みによつて、全く絶望的であつた彼自身の生命が助けられたのである。……

しかし、誇りと虚栄がヒゼキヤの心を捕らえた。そして彼は得意気に、強欲な人々の目の前に神がお与えになつた、神の民の宝を開いて見せた。王は、『宝物の蔵、金銀、香料、

貴重な油および武器倉、ならびにその倉庫にあるすべての物を彼らに見せた。家にある物も、国にある物も、ヒゼキヤが彼らに見せない物は1つもなかった』（イザヤ 39 : 2）。彼がこうしたのは、神に栄光を帰するためではなくて、外国の君たちの前で自分を高めるためであった」（『希望への光』 519 ページ、『国と指導者』 上巻 309 ページ）。

信心深い王の叫びに応じて、神はその民を救い、ご自身を示されました。地上の運命を支配されるイスラエルの全能の王は、主の民を滅ぼそうとする敵を滅ぼされるだけでなく、なんとかして主の民以外の「バビロン人」にも、主の民となるチャンスをお与えになります。

## 第 8 課

「わが民を慰めよ」

今期の聖書ガイドの副題。

40 章の学び。

アドベンチストの使命について考える。

58 頁

「アッシリア」または「アッシリア人」という言葉は、イザヤ 7 : 17~38 : 6 に 43 回出てきますが、それ以降は 1 回しか出てきません。イザヤ書の終わりの部分は、ユダのバビロン捕囚からの解放を預言しています（イザ 43 : 14、47 : 1、48 : 14、20）。

イザヤ 1~39 章は、紀元前 701 年のアッシリア人からの解放までの諸事件を強調していますが、40 章の初めでは、1 世紀半先の紀元前 539 年のバビロンの終焉と、その後のユダヤ人の帰還の記事へと飛びます。

イザヤ 39 章は、ヒゼキヤの子孫のある者たちはバビロンの捕囚となることを予告することによって、続く章へのつなぎとなっています（イザ 39 : 6、7）。さらに、イザヤ 13、14、21 章の託宣はバビロンの陥落と、それがもたらす神の民の解放を予告しています。「まことに、主はヤコブを憐れみ／再びイスラエルを選び／彼らの土地に置いてくださる。……主が、あなたに負わせられた苦痛と悩みと厳しい労役から、あなたを解き放たれる日が来る」（同 14 : 1~4）。この聖句とイザヤ 40 : 1、2 にある、主の民の苦難が終わるといふ神の約束との密接な関係に注目してください。

バビロンが倒れた後のことは三天使の使命に類似している。

59 頁

問 4 主をお迎えする備えとして何が必要でしょうか（イザ 40 : 3~5）。

呼ばれる者の声がする、「荒野に主の道を備え、さばくに、われわれの神のために、大路を



まっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、陰しい所は平地となる。こうして主の栄光があらわれ、人は皆ともにこれを見る。これは主の口が語られたのである」。

新約聖書はイザヤの預言を、バプテスマのヨハネの説教によって完成した霊的な道備えに適用しています（マタ 3:3）。ヨハネのメッセージは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」（同 2 節）であり、彼の施したバプテスマは「罪の赦しを得させるため」の「悔い改めのバプテスマ」（マコ 1:4）でした。つまり、この道備えとは、神の赦しとご臨在の慰めにあずかるために喜んで罪から離れ、悔い改めることでした。

エレミヤ 31:31~34 は、神のための道備えの霊的な意味を理解するために、ユダの捕囚という多くの時間をかけて伝えられたのと同じ霊的メッセージを宣言しています。その中で主は、喜んで新しいスタートを切ろうとする人々に「新しい契約」を約束されました。その契約とは、主ご自身が彼らの心に主の律法を書き記され、主が彼らの神となるとの誓いでした。彼らは主を知り、主のご品性を知るのです。それは、主が彼らを赦してくださったからです。

## 62 頁

「多くのクリスチャンと名乗る者たちが、主をおいて他の神々に仕えている。私たちの創造主は、私たちの最高の献身と私たちの第一の忠誠をご要求になる。私たちの神への愛を弱めようとするもの、神のための奉仕を妨げようとするものは何であれ、私たちにとって偶像となるのである」（『SDA 聖書注解』第 2 巻、1011~1012 ページ、英文）。

古代の文書によって、当時から偶像崇拜は魅力的なものであったことがわかります。それが物質主義と結びついていて、偶像崇拜者たちは、彼らに豊穰と繁栄をもたらすことができると信じて、その力を崇めていたのです。それはいわば、私たちにも馴染みのある、「御利益」宗教でした。

主が再びおいでになる直前に、エリヤの最終的な和解のメッセージ（マラ 3:19~24 [口語訳 4 章]）である主の「道備え」をするために、わたしたちは創造主を礼拝するか、それとも何か他のものを礼拝するか（黙 13、14 章）という、エリヤの時代と同じ選択に迫られるでしょう。終わりの時には、それが何であれ、私たちが常に拝むものがはっきりするのです。

この課から私は現代のアドベンチストの使命は悔い改めのメッセージを語ることだと考えます。うちに対してはイエス様がラオデキヤ教会へ促される黙 3:19 熱心になって悔い改めるなさい。であり、外に対しては 3 天使の使命である一神を恐れ、自身の内なるバビロンが倒れること、忍耐してイエスキリストを下さった愛の神様に服従すること。

## まとめ

「イザヤの時代には、神について誤った解釈がなされ、人類の靈的理解は暗かった。サタンは、長い間、創造主が、罪と苦しみと死の創始者であると人々に思わせてきた。こうして、サタンに欺かれた人々は、神をかたくなで、苛酷なお方であると考えた。彼らは、神を、罪を非難して宣告を下すために目を見張り、援助せずともよい正当な理由がある限り、罪人を快く受け入れないもののように考えた。天は、愛の律法に支配されているのであるが、大欺瞞者はそれを人類の幸福を束縛するもの、重苦しいくびきであると誤表し、人類は律法から解放されることを喜ぶべきであると言った。戒めは守り得ないもので、罪に対する罰は、独断的に与えられたものであると彼は言った」（『希望への光』507 ページ、『国と指導者』上巻 275 ページ）。

イザヤを通して神は、苦しむ者たちに慰めをお与えになりました。その苦難の時代は終わり、神は彼らのところに戻って来てくださるのでした。彼らは失望と困惑から解放され、彼らのためにいつでも創造の力を働かせる用意のある神に信頼することができるのでした。

全部の課のまとめをしたかったのですが、時間が無く 8 課までになりました。

#### 後の重要なポイント

10 課はイザヤ書 52 : 13 から 53 章全体の主の僕の歌を学びます。

ユダヤ人はこの僕は自分達であるとしています。それはイザヤ書の中の主の僕がヤコブと呼ばれイスラエルの民そのものを指すからです。

イザヤ 44 : 1, 2

しかし、わがしもべヤコブよ、わたしが選んだイスラエルよ、いま聞け。  
あなたを造り、あなたを胎内に形造り、あなたを助ける主はこう言われる、『わがしもべヤコブよ、わたしが選んだエシュルンよ、恐れるな。』

キリスト教徒がイザヤ書 52 : 13 から 53 章をイエスキリストに当てはめるので彼等は強く反対します。しかし、彼等の持つラビ聖書「クラオット・ゲドロット」あるアラム語タルグム（アラム語訳聖書）のイザヤ 52 : 13 節にはこう書かれています。

הָא יַצְלַח עַבְדֵי מְשִׁיחָא יְרָאם וְיִסְגִי וְיִתְקַף לְחַדָּא :

(Isa. 52:13 TAR)

見よ。我がメシアなるしもべは栄え、彼は高められ、成長し、非常に強くなる。

バビロニアタルムードサンヒドリン 9 8a には以下のエピソードが書かれている。“ラビ・

ヨシュア・ベン・レビがラビ・シメオン・ベン・ヨハイの墓穴の入口でエリアに会った。中略 彼はエリアに尋ねた。「いつメシアは来るのでしょうか」。エリアは答えた。「彼(メシア自身)のところへ行って聞くがよい」。「彼はどこに座っているのですか」。「ローマの城門のところだ」。「どのような徴で彼を見分けることができるのでしょうか」。「彼は貧しい、病(重い皮膚病?)を病む者の間にいる。(イザヤ53章3, 4と比較)すべての者は包帯を解くのと巻くのを一緒に行っているが、彼は包帯を解くのと巻くのをそれぞれ別々に行っている。(次を介抱する前に)「贖いに、彼らが私を必要としないように。すべての傷ついた者が私が覆うまで私が遅れることの無いように」。さてラビ・ヨシュアは出かけて行って彼(メシア)に出会い挨拶して言った。「汝に平安あれ！」

このようにユダヤ人のラビ文献の中にイザヤ書 52:13-53 章がメシア預言として使われている箇所が残っている。

#### まとめ

「キリストは十字架の上のご自身の体をもってわれわれの罪を負われた。……誰一人、限りある存在である人間には償うことのできない罪があるなら、それはどんな罪だというのだろうか。神にしか消し去ることのできない呪いがあるなら、それはどんな呪だというのだろうか。キリストの十字架は、罪の刑罰は死であることをすべての人に証言している。……その罪の中には、道徳的感覚を奪い、心に響く聖霊の御声に対して彼らを頑なにさせる何か強い、魅惑的な力があるにちがいない」(『われらの高き召し』44 ページ、英文)。

「神の統治の律法は神の独り子の死によって拡大されねばならなかった。キリストは世の罪の罪責を負われた。私たちの必要は神の御子の受肉と死によってのみ満たされる。キリストが苦しまれたのは神性によって支えられていたからである。キリストが耐えられたのは不従順や罪の汚れが一つもなかったからである。このように刑罰の裁きを受けることによって、キリストは人のために勝利された。キリストは律法を高め、それを尊いものとされる一方で、人に永遠の命を保証された」(『セレクトッド・メッセージズ』第1巻 302 ページ、英文)。

神の救世主の出生とその背景、そしてその生涯を語ることによって、イザヤは遂に、私たちに希望を与えるための至高の悲劇の幕を開けます。私たちを含めて失われた者たちに手を差し伸べ、救い、そして癒すために神の僕は自ら、私たちの受けるべき苦しみと罰を負われたのでした。

ユダヤ教やイスラームはあの偉大な神が人となり受難することに躓きます。しかしここにこそキリスト教の教えの中心があります。